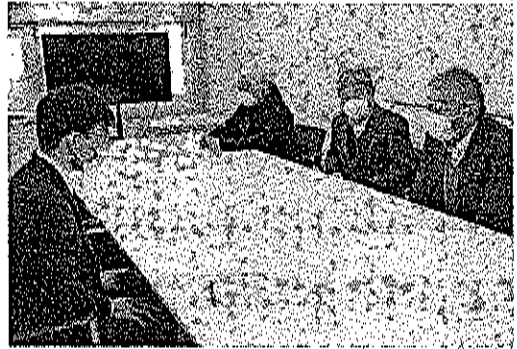


岩手に見る インボイス導入1カ月

値下げ・取引断念 苦渋

免税事業者がインボイス（適格請求書）登録をして消費税を支払うか、消費税相当分の値引きをするかの選択を迫られる。10月1日のインボイス施行から1カ月がたちましたが、鈴木俊一財務相（衆院岩手2区選出）の地元・岩手県では怒りと困惑の音が収まりません。県内の民主商工会は実務的な相談に乗りながら、「インボイスは直ちに廃止を」と訴えています。

（岩手県・三國大助）



インボイス撤回を訴える消費税廃止県各界連（事務局＝岩商連）の人たち＝10月23日、岩手県庁前

クローズアップ

「権力の側にきちんと物申すことが大事ではないか。税務署だけでなく、今回は財務事務所に行こう」。岩手県商工団体連合会（岩商連）は10月23日、財務省の盛岡財務事務所を初めて訪問しました。関沢浄会長は「インボイスの強行で現場では混乱が広がっている」と警告し、インボイス廃止、消費税5%減税、ガンリン税凍結を要請しました。

事務余裕ない

インボイス中止のネット署名は過去最高の56万人を突破。署名をしたライター（50）＝盛岡市＝は県内企業のパンフレットの作成などをし

盛岡財務事務所を訪問する岩商連の関係者（右から2人目）ら＝10月23日、盛岡市

「冊子おけない」 ■ 「なぜ対応領収書発行しない」

ています。「フリーランスは『自由』というイメージを持たれるが、実は泥くまぐち働いている。面倒な事務をやる余裕は全然なく、インボイスは登録しなかった。取引先との関係では原稿料を値下げしました」

別の60代の女性ライターは、取引先の観光協会から「インボイス登録をしないと、あなたの冊子は置けなくなった」と切り出されました。年収が300万円未満なのに、1カ月分に当たる消費税を新たに払えないと考え、取引を断念。「でも、相手側も申し訳なさそうに頼んでいた」と振り返ります。

民商が相談会

宮古市を中心に活動する宮古民主商工会は同20日、インボイス・消費税相談学習会を開き、15人の参加者にインボイス対応の請求書や領収書の書き方を説明しました。

参加者からは、「商売を続けるには登録せざるを得ない」「登録をしたが、事務の大変さがわかったので」取り下げられるには、どうしたらいいか」との声が聞かれました。

福祉の仕事にも携わっていたこの女性は、「介護保険改悪で、お金のない人がサービス利用を減らしている。老後の不安を解消し、子どもたちの未来を保障するなら消費税を払おうと思うが、そうじゃない」と憤りま

同会の木村明事務局長は「誤った情報を耳にして相談に来る人も多く、連日のように問い合わせがある。毎週木曜日を『インボイス相談デー』に設定して取り組みたい」と意気込んでいます。

飲食店が多い北上市では、「居酒屋の店主が建